2. 雛形具体化

雛形具体化を用いるグラフ簡約器

2.1 雛形具体化

Implementation of Functional Programming Languageの11章、12章

- 関数プログラムは**式を評価**によって実行される
- 式はグラフで表現される
- 評価は一連の簡約を行うことで実施される
- 簡約はグラフ中の簡約可能式(redex)を簡約しその結果で置き換える
- 評価は対象とする式が正規形(normal form)になれば終了
- 簡約系列な複数ありうるが停止したときには同じ正規形になる
- 正規形に到達する簡約系列があれば最外簡約戦略で必ず停止する

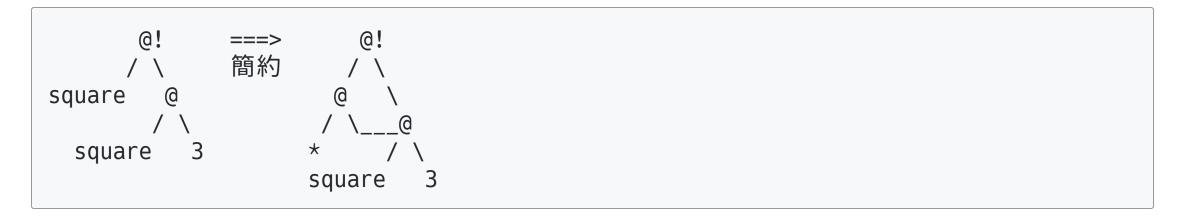
簡約例

```
main = square (square 3)
square x = x * x
```

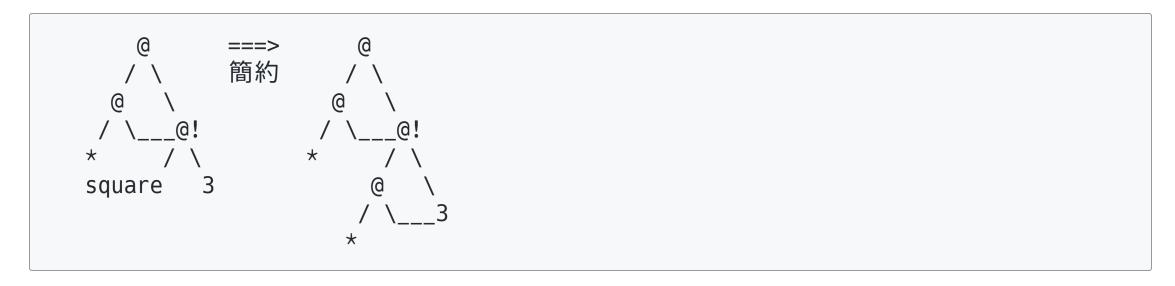
スーパーコンビネータ main には引数はなく、それ自身redexなので、ボディ部と置き換える。

```
main ===> @
簡約 /\
square @
/\
square 3
```

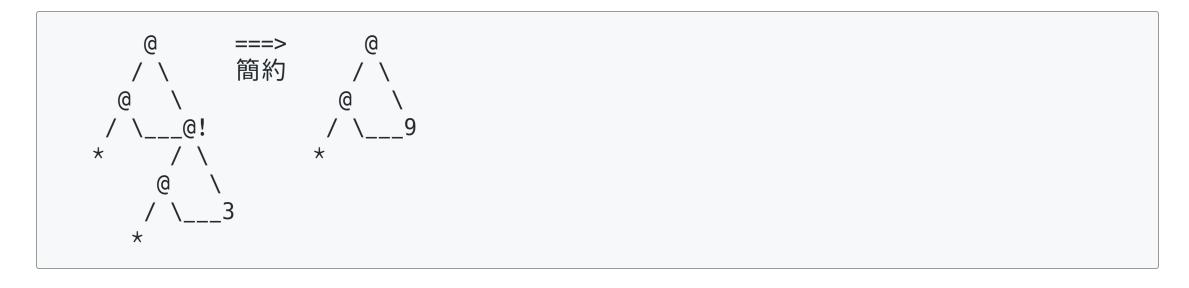
最外のredexは square の適用式。関数本体を具体化したものでredexを置き換える。仮引数の各出現を引数へのポインタで置き換える。



ここでredexは内側の square の適用式だけなので、これを簡約する。



ここで内側のかけ算が、唯一のredexとなるのでこれを簡約する。



最後の簡約は簡単。



2.1.2 簡約の3ステップ

以下を正規形が得られるまで繰り返す

- 1. 次に簡約するredexを見つける
- 2. そのredexを簡約する
- 3. redexのルートを結果で更新する

最外の関数適用が

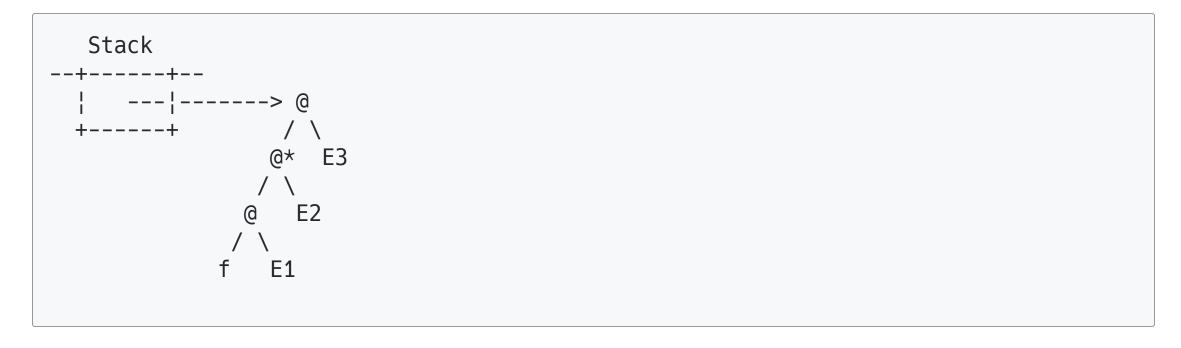
- スーパーコンビネータ適用の場合
 - この適用は必ずredexなので簡約(β簡約)
- 組込みのプリミティブ適用の場合
 - 2つの引数が共に正規形ならこの適用はredexなので簡約(δ簡約)
 - そうでないなら、引数を正規形にして(この適用がredexになって)から簡約 (δ簡約)

2.1.3 背骨を巻き戻して次のredexをみつける

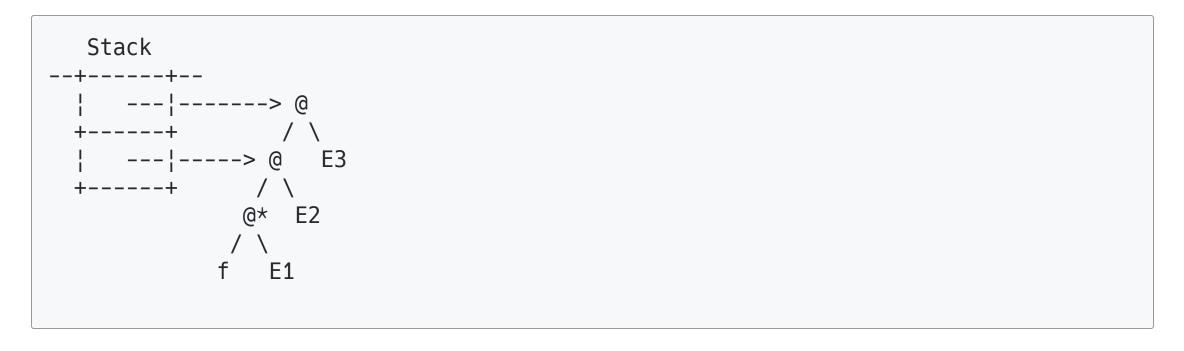
ルートから適用ノードの左側を辿る



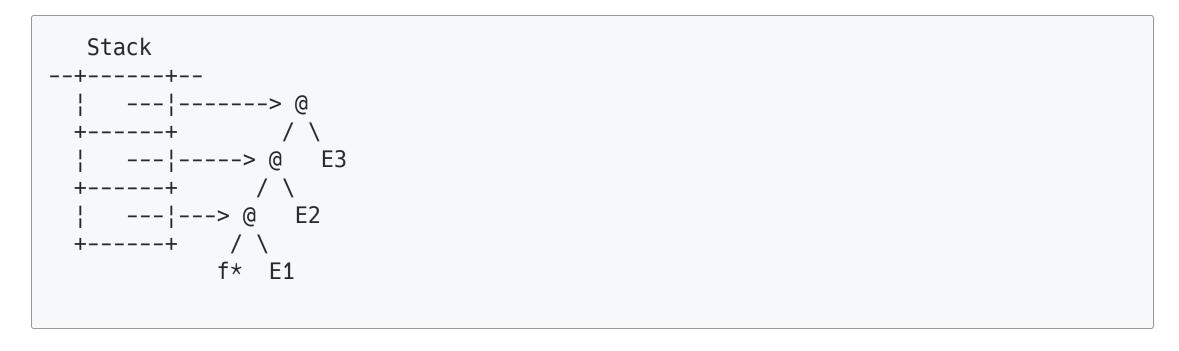
ルートの適用ノードをスタックに積んで、左へ降りる



適用ノードをスタックに積んで、左に降りる



適用ノードをスタックに積んで、左に降りる



f がスーパーコンビネータの場合: f をスタックに積んで、f のアリティ(ここでは2とする)を確認

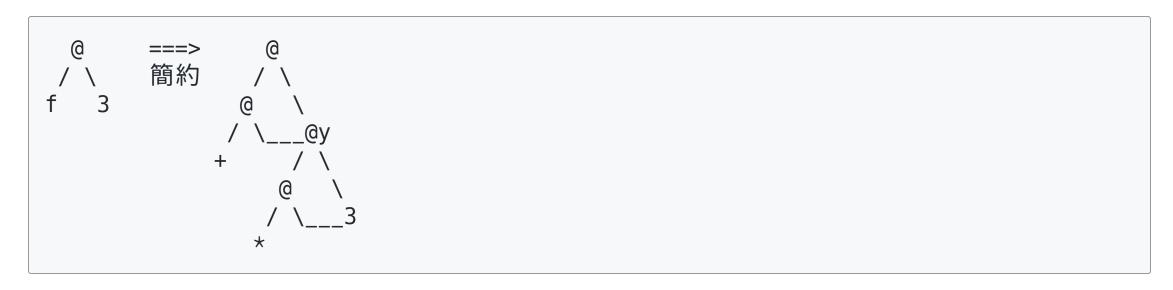


f がスーパーコンビネータの場合: アリティ(ここでは2とする)の分だけノードを上へ もどったところが、最外の簡約可能項のルートノード

f がプリミティブ(算術2項演算子)の場合: 被演算子 E1 および E2 が共に正規形なら! のついたノードが最外の簡約可能項のルートノード。さもなければ、先に被演算子項を正規形にまで簡約する。

2.1.4 スーパーコンビネータの簡約可能項

- スーパーコンビネータの簡約可能項は、仮パラメータの出現位置を対応する実引数項へのポインタに置き換えたスーパーコンビネータ本体で置き換える
- 実引数項をコピーせず、ポインタを使い、共有していることに注意



2.1.5 更新

```
id x = x
f p = (id p) * p
main = f (sqrt 4)
f の簡約後
  id
    sqrt 4
                    sqrt
```

は間接参照ノード

2.1.6 CAF

fac20 = factorial 20

スーパーコンビネータ fac20 は CAF でかつ redex のルートなので、 fac20 の簡約結果 で上書きする

2.2 状態遷移システム

かけ算機械

練習問題 2.1

かけ算マシンを手で走らせよ。初期状態 (2,3,0,0) からはじめ、各ステップで発火する規則を特定し、最終状態が (2,0,0,6) であることを確かめよ。

練習問題 2.2

状態列の不変条件とは、すべての状態で真となる述語である。 n および m の初期値 N および M と現在の n、m、d、t の値のとの関係を見つけよ。これにより、このかけ算機械が、かけ算を実行するものであることを証明せよ。すなわち、以下を示せ。

- 1. 初期状態で不変条件が成り立つ
- 2. ある状態で、不変条件が成り立てば、次の状態でも不変状態が成り立つ
- 3. 不変条件と停止条件が成り立てば、t=N imes M である
- 4. このかけ算機械は停止する

状態遷移システムは、以下の点で便利

- 低レベルの詳細にわずらわされない程度に抽象的
- 隠れた詳細に依存していないことが確認できる程度に具体的
- 状態遷移システムは直截に実行可能なHaskellのコードに変換できる

練習問題 2.3

状態が最終状態であるかを判断する述語 multFinal :: multState -> Bool を定義し、初期状態 (2,3,0,0) からかけ算機械を走らせると、最終状態が (2,0,0,6) になることを示せ。

2.3 Mark 1: 最小雛形具体化グラフ簡約器

マシン状態: (stack, dump, heap, globals) の4つ組

- *stack*: ヒープ上のノードを特定するアドレスのスタック
 - 。 $a_1:s$ という記法は、 a_1 がスタックトップ、s がのこりのスタックであることを示す
- dump: 正格なプリミティブ演算の引数評価に先立ち、スパインのスタックを記録
- heap: タグ付きノードを集めたもの
 - 。 h[a:node] という記法は、ヒープ h において、a はノードnodeのアドレスであることを示す
- globals: スーパーコンビネータおよびプリミティブを表すノードへのアドレス

ノードの表現

- NAP $a_1 \ a_2$ はアドレス a_1 にあるノードのアドレス a_2 にあるノードへの適用を表す
- NSupercomb $args\ body$ は引数argsと本体bodyをもつスーパーコンビネータを表す
- ullet NNum n は整数nを表す

状態遷移規則

(2.1)

状態遷移規則

(2.2)

$$a_0:a_1:\cdots:a_n:s$$
 d $h[a_0: exttt{NSupercomb}\,[x_1,\ldots,x_n]\,\,body]$ f $a_r:s$ d h' f

関数 instatiate の引数は、

- 1. 具体化する式
- 2. ヒープ
- 3. 名前からヒープ上のアドレスへのグローバルマッピング f をスタックにある引数名からヒープアドレスへのマッピングで拡張したもの

返り値は、

• 新しいヒープと、新しく構成されたインスタンスの(ルートノードの)アドレス

2.3.2 実装の構造

```
run :: String -> String
run = showResult . eval . compile . parse
```

1. parse はソースコード(:: String)を構文解析して CoreProgram を構成する関数(教科書とは意味を変更)

```
parse :: String -> CoreProgram
```

2. compile は CoreProgram を雛形具体化機械の初期状態に変換

```
compile :: CoreProgram -> TiState
```

3. eval はプログラム実行関数、初期状態から状態遷移を繰り返し、最終状態にまで 遷移させ、結果は通過したすべての状態のリスト

```
eval :: TiState -> [TiState]
```

4. showResult は最終結果を整形して表示する

```
showResult :: [TiState] -> String
```

2.3.3 パーザ

Language モジュールをインポートする

2.3.4 コンパイラ

TiState

type TiState = (TiStack, TiDump, TiHeap, TiGlobals, TiStats)

1. TiStack スパインスタック、ヒープアドレス Addr のスタック

type TiStack = [Addr]

2. TiDump ダンプ、2.6節までは不要。ダミー

```
data TiDump = DummyTiDump
initalTiDump = DummyTiDump
initalTiDump = DummyTiDump
```

3. TiHeap は Node を格納するヒープ

```
type TiHeap = Heap Node
type Heap a = (Int, [Addr], [(Addr, a)])
```

Heap は使用アドレス数、未使用アドレス集合、アドレスと内容の2つ組のリスト、の3つを組にしたもの

4. TiGlobal はスーパーコンビネータ名とその定義が納められているヒープ上のアドレスの連想リスト

```
type TiGlobals = Assoc Name Addr
type Assoc a b = [(a, b)]
```

5. TiStats 実行時性能統計のためのデータ収集用、ひとまずステップカウント

```
type TiStats = Int
tiStatInitial :: TiStats
tiStatInitial = 0
tiStatIncSteps :: TiStats -> TiStats
tiStatIncSteps s = s + 1
tiStatGetSteps :: TiStats -> Int
tiStatGetSteps s = s
applyToStats :: (TiStats -> TiStats) -> TiState -> TiState
applyToStats f (stack, dump, heap, scDefs, stats)
  = (stack, dump, heap, scDefs, f stats)
```

compile

buildInitialHeap プログラムから NSupercomb ノードを含むヒープと、スーパーコンビネータ名とヒープ上のアドレスの対応を示す連想リストを構成する。

2.3.5 評価器

最終状態の判定

• 計算はスタックに単一の数またはデータオブジェクトが含まれる状態になったときにの み停止する

step ある状態から1つ次の状態への遷移

NNum ノードと NAp ノードはやさしい

```
numStep :: TiState -> Int -> TiState
numStep state n = error "Number applied as a function"

apStep :: TiState -> Addr -> Addr -> TiState
apStep state a1 a2 = case state of
   (stack, dump, heap, globals, stats) -> (a1:stack, dump, heap, globals, stats)
```

スーパーコンビネータの適用:

- 1. 本体を具体化、引数名をスタックにあるアドレスと結びつける(規則2.2)
- 2. 簡約可能項のルートを含む引数をスタックから除去、簡約結果をスタックにプッシュ

(Mark 1 では更新は行わない)

```
scStep :: TiState -> Name -> [Name] -> CoreExpr -> TiState
scStep state scName argNames body = case state of
  (stack, dump, heap, globals, stats)
  -> if length stack < length argNames + 1
        then error "Too few argments given"
        else (stack', dump, heap', globals, stats)
where
    stack' = resultAddr : drop (length argNames + 1) stack
    (heap', resultAddr) = instantiate body heap env
    env = argBindings ++ globals
    argBindings = zip argNames (getargs heap stack)</pre>
```

getargs スタックにある引数名に対応するヒープ上の実引数ノードのアドレスを取得する

```
getargs :: TiHeap -> TiStack -> [Addr]
getargs heap stack = case stack of
    sc:stack' -> map getarg stack'
    where
        getarg addr = arg
        where
        NAp fun arg = hLookup heap addr
[] -> error "Empty stack"
```

instantiate

```
-> TiHeap -- Heap before instatiation
        -> Assoc Name Addr -- Association of names to address
        -> (TiHeap, Addr) -- Heap after instatiation, and address of root of instance
instantiate expr heap env = case expr of
 FNum n
                -> hAlloc heap (NNum n)
 EAp e1 e2
                -> hAlloc heap2 (NAp a1 a2)
  where
    (heap1, a1) = instantiate e1 heap env
    (heap2, a2) = instantiate e2 heap1 env
 EVar v
          -> (heap, aLookup env v (error ("Undefined name " ++ show v)))
 EConstr tag arity -> instantiateConstr tag arity heap env
 ELet isrec defs body -> instantiateLet isrec defs body heap env
```

2.3.6 結果の整形

showResults

showState

showStack

```
showStack :: TiHeap -> TiStack -> IseqRep
showStack heap stack
 = iConcat
    [ iStr "Stack ["
    , iIndent (iInterleave iNewline (map showStackItem stack))
    , iStr " ]"
   where
      showStackItem addr
        = iConcat [ showFWAddr addr, iStr ": "
                  , showStkNode heap (hLookup heap addr)
```

showStkNode

showNode

showAddr

```
showAddr :: Addr -> IseqRep
showFWAddr :: Addr -> IseqRep
showFWAddr addr = iStr (space (4 - length str) ++ str)
where
   str = show addr
```

showStats